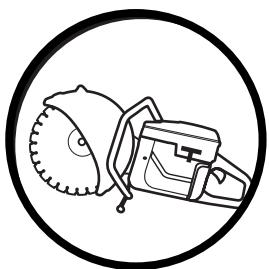
パワーカッター取扱説明書

K750

パワーカッターをご使用になる前にこの
取扱説明書を注意深くお読みいただき、
内容を必ずご確認ください。

Japanese

シンボルマークの意味

警告！不注意な取扱や誤った取扱は作業者や周囲の人などに深刻な、時には致命的な傷害を引き起こすことがあります。

パワーカッターをご使用になる前にこの取扱説明書を注意深くお読みいただき、内容を必ずご確認ください。

常に下記のものを着用してください。

- 保護ヘルメット
- イヤマフ
- 保護メガネまたはバイザー
- 呼吸マスク

この製品は EC 指令に準拠しています。

警告! 切断の際には粉塵が発生し、人体に吸い込まれると危険です。適切な呼吸マスクをご使用ください。ガソリンの蒸気や排気を吸い込まないように注意してください。常に換気を十分に行ってください。

警告！カッティングブレードから発生する火花から以下の可燃物に引火することがあります。ガソリン、木材、乾燥草など

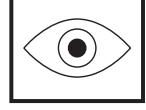
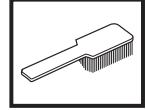
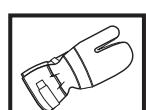
環境に対する騒音レベルは EC 指令に準拠。本機の騒音レベルは、主要諸元の章とステッカーに記載されています。

点検やメンテナンスを行うときは、まず停止スイッチを STOP の位置にして、エンジンを切ってください。

常に保護手袋を着用してください。

定期的な清掃が必要です。

目視点検

保護メガネまたはバイザーを必ず着用してください。

作動ポジション

停止、リターンスプリングは操作ポジション

停止、固定ポジション

その他のシンボルやステッカーは、諸地域固有の各種基準に対応したものです。

目次

シンボルマークの意味

シンボルマークの意味 2

目次

目次 3

各部名称

パワーカッターの各部名称 4

安全注意事項

新しいパワーカッターをお使いになる前に 5
使用者の身体保護具 5
パワーカッターの安全装置........ 6
パワーカッター安全装置の点検・メンテナンス・サービス........ 7
安全に関する予備知識 8
一般的な作業方法 9
カッティングブレード 11

組立

ドライブアクスルとフランジワッシャの点検 13
カッティングブレードの取付 13
ブレード用ガード 13

燃料の取扱

燃料 14
給油 14

始動と停止

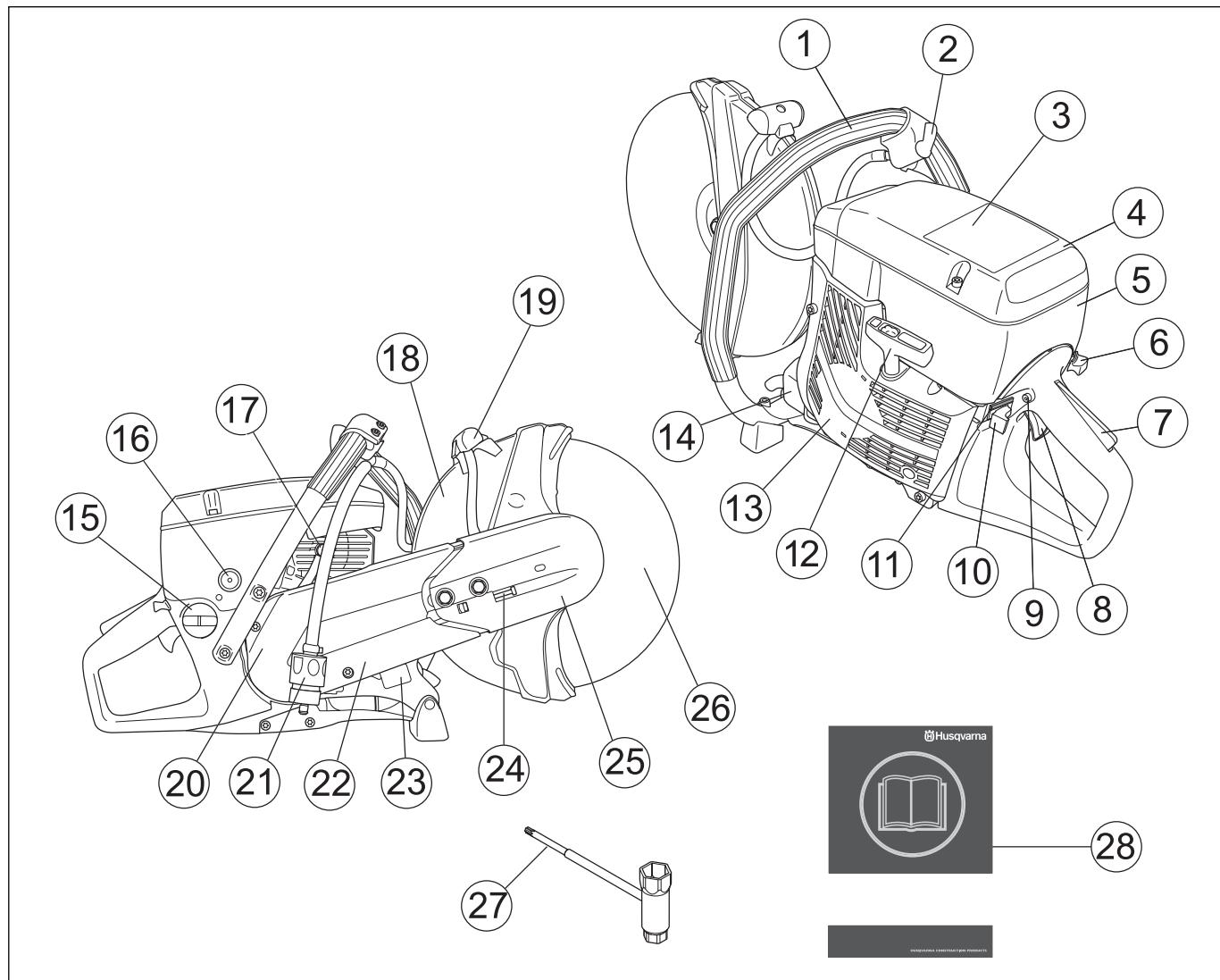
始動と停止 15

メンテナンス

ドライブベルトの張り具合 16
ドライブベルトの交換 16
ベルトプーリーとクラッチ 16
キャブレター 16
燃料フィルター 17
エアフィルター 17
スターター装置 18
スパークプラグ 19
冷却システム 19
マフラー 19
一般的なメンテナンスの方法 20

主要諸元

カッティング装置 21
EC 適合宣言 22

各部名称

パワーカッターの各部名称

1 前ハンドル
2 水道栓
3 警告ステッカー
4 エアフィルターカバー
5 シリンダーカバー
6 チョーク
7 スロットルロック
8 スロットルトリガー
9 スロットルロックの始動
10 停止スイッチ
11 オイルガードの無効化機能（K750 オイルガード）
12 スターターハンドル
13 スターター装置
14 マフラー
15 燃料タンク
16 空気パージ
17 自動デコンプバルブ
18 ブレード用ガード
19 ガード用調整ハンドル
20 ベルトガード
21 フィルター付き水道接続
22 カッティングアーム
23 銘板
24 ベルトテンショナ
25 カッティングヘッド
26 カッティングブレード
27 コンビレンチ
28 パワーカッター取扱説明書

安全注意事項

新しいパワーカッターをお使いになる前に

- 取扱説明書をよくお読みください。
- カッティングブレードの取付具合を点検します。「組立」の章を参照してください。
- エンジンを始動しアイドリングの設定を点検します。詳細は「メンテナンス」を参照してください。キャブレターが正しく設定されていると、カッティングブレードはアイドリング時に静止状態になるはずです。アイドリング速度の設定は取扱説明書に記載されています。説明に従って、適切な速度に設定します。アイドリング速度を正しく調整せずにパワーカッターを使用しないでください。
- パートナー社の代理店にパワーカッターを点検、重要な調整、修理を依頼してください。

警告! いかなる理由であれ、製造者の承認を得ることなく本機の設計に変更を加えないください。常に純正の付属品をお使いください。不認可の設計変更や付属品は、使用者やその他の人の重傷や致命傷の原因となることがあります。

警告! 材料の切断、粉砕、穴あけ、サンディング、形成を行う機械を使用すると、人体に危険な化学物質含んだ粉塵や蒸気が生成されることがあります。扱う材料の性質を理解して適切な粉塵マスクまたは呼吸用保護具を着用してください。

警告! 不注意な取扱や誤った取扱をすると、パワーカッターは危険であり、重傷や時には致命傷の原因となります。本書をよくお読みになり、内容を理解することが非常に重要です。

警告！ 本機のイグニションシステムは、運転中に電磁場を生成します。この電磁場は、場合によってペースメーカーに影響を及ぼすことがあり得ます。重傷や致命傷の危険性を低減するため、ペースメーカーの使用者は、本機を使用する前にまず医師とペースメーカーの製造元に確認を取ることをおすすめします。

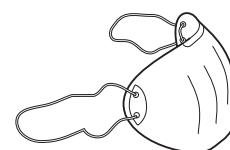
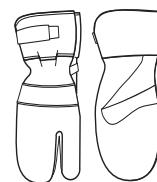
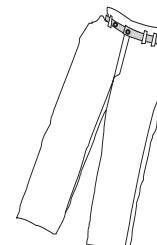
ハスクバーナ・コンストラクション・プロダクツは継続的に製品の開発をおこなっています。ハスクバーナは設計や外見などを予告なく変更する権利を有し、また、デザイン変更をそのつど発表するする義務を負いません。

本書の情報およびデータのすべては、本書の印刷時に有効なものです。

使用者の身体保護具

警告! 本機を使用する際は、承認を受けた身体保護具を必ず着用してください。身体保護具で負傷の危険性を排除できるわけではありませんが、万が一事故が起こった場合、負傷の度合いを軽減することができます。身体保護具を選ぶ場合は、パワーカッターの販売店にご相談ください。

- 保護ヘルメット
- イヤマフ
- 保護メガネまたはバイザー

- 呼吸マスク

- 高耐久性で、握りが確かな保護手袋

- 体の動きを制限することのない、体にフィットした丈夫で快適な服装。

- 切断材料に応じて脚部保護の使用
- つま先部スチール製、ノンスリップ靴底のパワーカッター用防護靴。

- 常に救急箱を身近に備えてください。

パワーカッターの安全装置

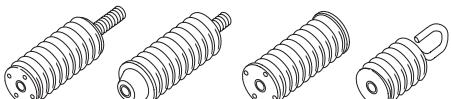
このセクションでは、パワーカッターの各種安全装置とその目的について、また、各安全装置が正しく機能するための点検やメンテナンスの方法について説明しています。安全装置の配置については「各部名称」を参照してください。

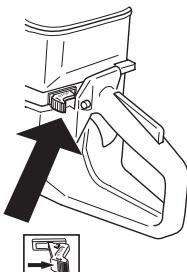
警告! 安全装置に欠陥のあるパワーカッターは決して使用しないでください！このセクションの説明にしたがって点検、メンテナンス、およびサービスを定期的に行ってください。

振動軽減システム

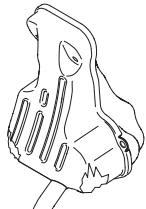
本機には振動軽減システムがついており、振動をやわらげ操作しやすいようになっています。

本機の振動軽減システムは、エンジンユニットやカッティング装置とハンドル間の振動の伝導を軽減します。

切断装置を含むエンジン本体は、振動軽減ユニットによってハンドルを振動から守っています。

停止スイッチ

停止スイッチはエンジンを切るときに使用します。

マフラー

警告！使用中および使用直後のマフラーは非常に熱くなっています。熱くなっているマフラーには決して触れないでください！

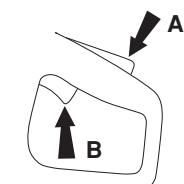
マフラーは騒音のレベルを最小限に抑え、直接、排気ガスから使用者を防ぐ働きをします。

警告！エンジンの排気ガスは高温で火花を含むこともあり、火災発生の原因となり得ます。屋内や可燃物のそばでは、決して本機を始動しないでください！

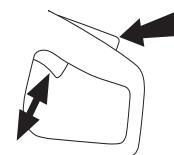
重要事項

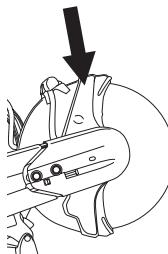
マフラーに関しては、点検、メンテナンス、およびサービスの指示に従うことが非常に重要です。詳細は「安全装置の点検・メンテナンス・サービス」を参照してください。

警告! マフラーには発ガン成分となり得る化学物質が使われています。万が一マフラーが損傷した場合、これらの物質に触れないようにしてください。

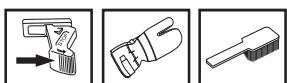
スロットルロック

スロットルトリガーロックはスロットルトリガーの操作ミスを防ぐためのものです。ロック (A) を押すと、スロットル (B) が解除されます。

スロットルが押されている間は、トリガーロックは押されたままの状態を保ちます。

ハンドルのグリップを放すと、スロットルトリガーとスロットルトリガーロックの両方が元の位置に戻ります。この動作は、2 つの独立したリターンスプリングシステムが制御しています。この構造はつまり、スロットルトリガーが自動的にアイドリング状態でロックされることを意味します。

ブレード用ガード

カッティングブレードの上にガードが取り付けられています。ガードはブレードや切断小片が作業者に向って飛ぶのを防ぐためのものです。

パワーカッター安全装置の点検・メンテナンス・サービス

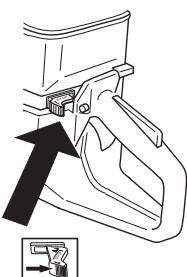
警告！本機のサービスや修理にはいずれも、特別な教育を必要とします。パワーカッターの安全装置に関しては、ことさらです。お持ちのパワーカッターの安全装置が下記の項目を一点でも満たさない場合は、必ずお近くのサービス代理店にご連絡ください。弊社では、製品お買い上げの際に、専門的な修理とサービスを保証しています。お買い上げになった販売店がサービス代理店でない場合は、その販売店に最寄のサービス代理店の所在地をお問い合わせください。

振動軽減システム

振動軽減ユニットにヒビや損傷がないか定期的に点検してください。

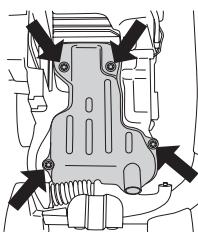
振動軽減ユニットがエンジンユニットとハンドルユニットにしっかり固定されていることを確認します。

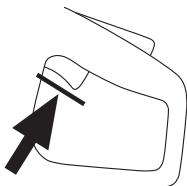
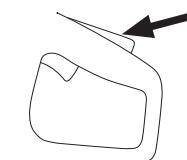
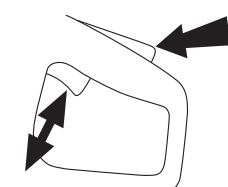
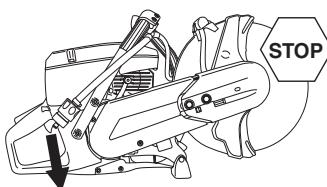
ハンドルは清潔にして乾燥した状態に保ってください。

停止スイッチ

エンジンを始動し、停止スイッチを停止の位置にすればエンジンが停止することを確認します。

マフラー

欠陥のあるマフラーを装着したパワーカッターは決して使用しないでください。

マフラーがパワーカッターにしっかりと固定されているかどうか、定期的に点検してください。

スロットルロック

- スロットルロックを放したとき、スロットルトリガーがアイドリングの設定になっていることを確認します。

- スロットルロックを押し、指を放すと元の位置に戻ることを確認します。

- スロットルトリガーとスロットルロックがスムーズに動き、リターンスプリングが正しく機能していることを点検します。

- パワーカッターを始動し、フルスロットルにします。スロットルトリガーを放せばカッティングブレードの回転が停止し静止状態を保つことを確認します。スロットルトリガーがアイドリングの位置にあるにもかかわらずカッティングブレードが回転する場合は、キャブレターのアイドリング調整をチェックしてください。

- 詳細は「メンテナンス」を参照してください。

ブレードガードの点検

警告! パワーカッターを始動する前に、ガードがしっかりと固定されているかどうか必ず点検してください。カッティングブレードが正しく取り付けられ、損傷していないことを確認してください。カッティングブレードが損傷していると、負傷の原因となることがあります。「組立」の説明を参照してください。

ガードに損傷がないか、ヒビや明らかな欠陥がないかどうかを点検します。

安全に関する予備知識

- パワーカッターはコンクリート・石材および鋼鉄・鉄のような硬質材料を切断するように設計されています。柔らかい材料を切断するとキックバックのリスクが高まることに注意してください。「キックバックの避け方」を参照してください。
- パワーカッターをご使用になる前に、本書の内容をすべてお読みください。
  「パワーカッター安全装置の点検・メンテナンス・サービス」の項に記載された事項だけでなく、すべてのサービスは必ずトレーニングを受けた専門家が行ってください。
- 疲労時や飲酒後、視野・判断力・動作に影響を及ぼすような医薬品を服用している場合は、絶対に本機を使用しないでください。
- 身体保護具を着用してください。「使用者の身体保護具」を参照してください。
- オリジナルの仕様を変更したパワーカッターは、絶対に使用しないでください。
- 欠陥のあるパワーカッターは絶対に使用しないでください。本書の内容に従って、点検、メンテナンス、およびサービスを行ってください。メンテナンスやサービスの内容によっては、専門家でなければできないものもあります。詳細は「メンテナンス」の項を参照してください。
- 本取扱説明書の内容を理解していない人には決して本機の使用を許可しないでください。
- 本機を室内で始動しないでください。排気ガスを吸入すると危険です。

搬送と保管

カッティングブレードを付けたままパワーカッターを保管したり、運搬しないでください。

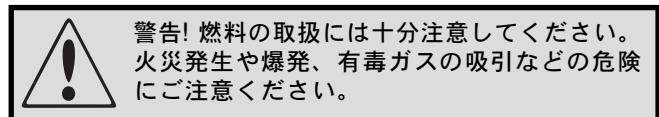
パワーカッターは鍵のかかる場所に保管し、子供や使用権限のない者がアクセスできないようにしてください。

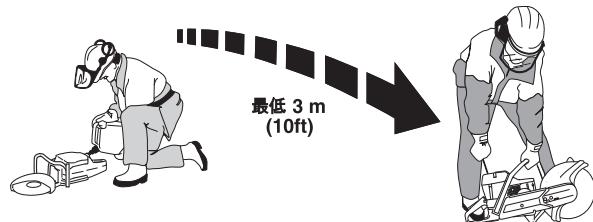
使用後はすべてのブレードを取り外し、注意してブレードを保管してください。カッティングブレードは乾燥した霜の発生しない場所に保管してください。

研磨ディスクは注意して取り扱ってください。研磨ディスクは必ず水平にして保管してください。ブレードに裏打ちパッドが同梱されている場合は、スペーサーを使用してブレードを平坦にします。研磨ディスクを湿気のある場所で保管すると、バランスが悪くなり、負傷の原因になります。

新品のブレードは、運搬や保管による損傷がないか点検してください。

燃料の安全について

（給油・燃料の混合・保管）

警告! 燃料の取扱には十分注意してください。火災発生や爆発、有毒ガスの吸引などの危険にご注意ください。

- エンジンの作動中は絶対に給油を行わないでください。
- 燃料の補給や混合（ガソリンと 2 サイクルオイル）を行うときは、十分に換気してください。
- 給油後は、給油した場所から少なくとも 3 m 離れたところで始動してください。

- 下記の条件では、決して本機を始動しないでください。
  - 燃料がこぼれた場合、きれいに拭き取り、表面に残った燃料が蒸発するのを待ちます。
  - 皮膚や衣服に燃料をこぼしたときはまず着替え、皮膚についた燃料を洗い流してください。石鹸と水を使用します。
  - 燃料が漏れている場合は、燃料キャップと燃料ホースから漏れていないか、定期的に点検してください。
- パワーカッターと燃料は、電気機器、電気モーター、リレー/スイッチ、ボイラーなど、火花や裸火を発するものから離して保管・運搬し、液体漏れやガスによる火災発生の危険性をなくしてください。
- 燃料の保管には、保管専用に承認された容器を使用してください。
- パワーカッターを長期間保管するときは、必ず燃料タンクを空にしてください。余剰燃料の廃棄場所は最寄のガソリンスタンドにご相談ください。
- 流出防止バルブの付いている HUSQVARNA の燃料容器を必ずご使用ください。

警告! 火災発生や爆発、有毒ガスの吸引などの危険にご注意ください。給油の前にはエンジンを止めてください。燃料が溢れないように、給油は満タンにしないでください。地面やパワーカッターの上にこぼれた燃料を拭き取ってください。燃料が作業者または作業者の衣服にこぼれた場合。衣服を着替えてください。給油後は、給油した場所から少なくとも 3 m 離れたところで始動してください。

一般的な作業方法

警告! このセクションでは、パワーカッターの使用に際しての基本的な安全注意事項について説明しています。しかし、ここに記載されている事項は、技術と経験をもつ専門家の知識にかなうものではありません。作業をしていて判断に迷う状況に遭遇した場合は作業を中断し、専門家のアドバイスを受けてください。パワーカッターをお買い上げになった販売店、サービス代理店やパワーカッター使用の経験が長い人などに相談してください。確信をもてない作業は行わないでください！

安全に関する基本事項

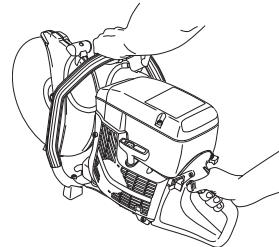
- 周囲を見渡してください。
    - 近くの人や動物、または他の物がパワーカッターの操作に影響しないことを確認します。
    - 上記のいずれもカッティングブレードに接触することがないことを確認します。
- 濃霧、豪雨、強風、厳寒など、気象条件の悪いときは本機を使用しないでください。悪天候下での作業は疲れやすく、また、地面が凍結するなど危険です。
- 作業場所にある障害物を片付け、足場を確保してから切断作業を開始してください。予期しない障害物が移動してぶつからないように、注意を払ってください。切断時に切断物が安定を失い倒れて、障害を引き起こさないように注意してください。斜面での作業は特に注意が必要です。
- 衣類や身体が回転するカッティング装置に接触することがないことを確認してください。
- カッティング装置が回転しているときは、安全距離を確保してください。
- パワーカッターが作動しているときには必ず、カッティング装置用ガードを取り付けてください。
- 作業場の視界が十分に明るくなっており、安全な作業環境であることを確認してください。
- カッティング装置が回転しているときは、パワーカッターを動かさないでください。パワーカッターには摩擦リターダーが備わっており、停止時間を短縮しています。
- 常に安全かつ安定した足場が確保されていることを確認してください。
- 配管や電気ケーブルが、切断箇所に配置されていないことを確認してください。

警告! 換気の良い場所でのみ本機を使用してください。これを怠ると死亡または重傷を負うことがあります。

切断

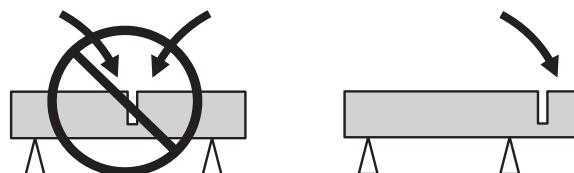
警告! パワーカッターの安全距離は 15 メートルです。作業現場に関係者以外の人や動物がいないことを確認してください。作業場所にある障害物をクリアし、足場を確保してから切断作業を開始してください。

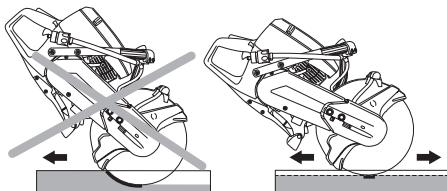
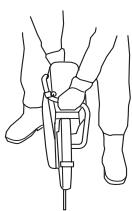
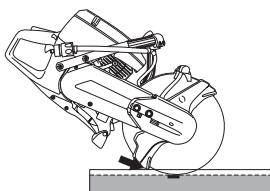
一般注意事項

- パワーカッターは最高速度で切断を開始してください。
- 常に、パワーカッターを両手でしっかりと握ってください。親指と 4 本の指で包みこむようにしっかりハンドルを握ります。

警告! 循環器系に障害のある人が振動を長期間受け続けると、循環器障害や神経障害を起こすことがあります。振動が原因と思われる症状が出たときは、医師に相談してください。症状にはしびれ、感覚まひ、うずき、ちくちくする痛み、刺すような痛み、力が入らない、皮膚の色の変化などがあります。これらの症状は通常、指や手の甲、手首に現れます。

切断のテクニック

次に説明するテクニックは一般的なものです。各ブレードの切断特性に関する情報をお調べください（例えば、ダイヤモンドブレードは研磨ディスクよりもフィード圧が低いなど）。

- 切断対象物は、次に何が起こるか予想でき、切断中に切断面が見えるような支え方をしてください。

- パワーカッターを始動するとき、ブレードに何も触れていないことを確認します。
- 常に最高速度で切断してください。
- ゆっくりと切断を開始します。ブレードを無理やり押し込んだりせず、パワーカッターの自然な作動にまかせます。

- ブレードをゆっくり前方、後方へ交互に移動しブレードと切断対象材料の間の接触部分を小さくします。これによりブレードの温度を下げ、切断効果が高まります。

- パワーカッターはブレードの線上になるように真っ直ぐに下ろします。横からの圧力はブレードが損傷を受け、非常に危険です。

- カッティング装置用ガードを適切に調整して後ろ側が切断対象材料と同一平面上になるようにします。ガードは切断物からの飛散物や火花が飛び散るのを妨ぎ、作業者を保護します。

警告！いかなる場合でもブレードの側面で切断をするのは避けてください。損傷や破損を起こし、重大な損害の原因になります。刃先の部分のみを使用してください。

パワーカッターを片側に引っ張らないでください。ブレードが詰まったり破損して人身事故を起こす原因となります。

ダイヤモンドブレードの目立て

ダイヤモンドブレードは間違ったフィード圧を加えたり、補強コンクリートのような材質を切断すると鈍くなります。鋭利に欠けたダイヤモンドブレードを使用するとオーバーヒートを起こし、ダイヤモンド粒子が脱落する原因になります。

砂岩やれんがのような柔らかい物質を切断してブレードの目立てを行ってください。

ブレードの振動

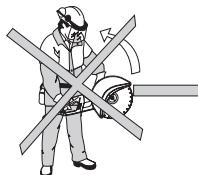
切断時にフィード圧を強くするとブレードは円形に歪みが生じたり、振動が起こることがあります。

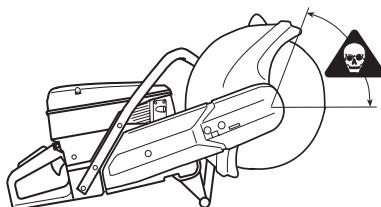
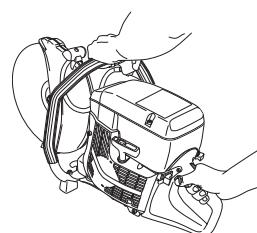
フィード圧を弱くすると振動が止まります。それでも改善が見られない場合は、ブレードを交換してください。ブレードは必ず切断対象材料に合った推奨タイプのものを使用してください。

キックバックの避け方

警告! キックバックは突然激しく起こり、パワーカッターがはじき返されて、カッティングブレードが使用者に向かってくる現象を言います。カッティングブレードの回転中にキックバックが発生すると、重傷や時には致命傷の原因となることがあります。キックバックが起こる理由を理解し、正しい技術と慎重な作業で発生を避けることが非常に重要です。

キックバックとは何か？

キックバックとは、ブレードの上部 1/4 のところ（キックバックゾーン）が何か他のものに接触し、パワーカッターとカッティングブレードが突然激しくはじき返される現象を言います。

一般的な原則

- 絶対にカッティングブレードの先端上部 1/4（キックバックゾーン）で切断しないでください。

- 常に、パワーカッターを両手でしっかりと握ってください。親指と 4 本の指で取り囲むようにしっかりハンドルを握ります。

- バランスを保ち、しっかりした足場を確保してください。
- 常に最高速度で切断してください。
- 切断対象物からほどよい距離に立ちます。
- 既存の切れ目にブレードを挿入するときは注意してください。
- 肩より高い位置で切断を行わないでください。
- 切断対象物の動きや、その他起こり得るどんなことに対しても油断をしないでください。切断面が閉じたりブレードが挟まれたりすることがあります。

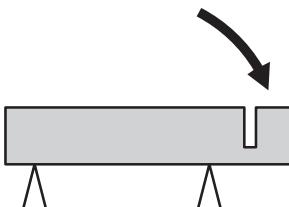
プルイン

プルインは、ディスクの下側の部分が突然停止したり切れ目が閉じたりするようなときに発生します。（これを避けるには、「安全に関する基本事項」と下記の「挟み込み／回転」を参照してください。）

挟み込み/回転

挟み込みは切れ目が閉じるときに起こります。挟み込みが起こると、パワーカッターが、突然、非常に強い力で下方向に引っ張られることがあります。

キックバックの避け方

切断対象物は、切断中および切断終了時に切断面が開いて見えるような支え方をしてください。

カッティングブレード

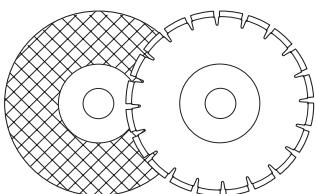
警告! カッティングブレードは炸裂し、作業者が損傷を受けることがあります。

パワーカッターよりも遅い定格速度のカッティングブレードを絶対に使用しないでください。

カッティングブレードを意図されていない材料には絶対に使用しないでください。

警告! ダイヤモンドブレードあるいはレスキューブレードでプラスチック材を切断すると、切断に伴って熱が発生し材料が溶け、ブレードに付着し、キックバックを起こすことがあります。

一般注意事項

カッティングブレードは 2 種類の基本デザインがあります。研磨ディスクおよびダイヤモンドブレード。

パワーカッターを運搬するときは必ずカッティングブレードを取り外してください。

カッティングブレードに使用するブッシングがパワーカッターに合った正しいものであることを確認してください。「カッティングブレードの組立」を参照してください。

高品質のブレードは多くの場合、最も経済的になります。低品質のブレードを使用すると切断能力が劣化し、パワーカッターの耐用年数が短くなります。その結果、切断できる材料の量を考慮するとコスト高になります。

水冷式

警告! 水冷式切断は、コンクリートを切断するときに行います。これにより、ブレードを冷やし耐用年数を長く保ち、また汚れが詰まるのを防ぐ効用もあります。主な欠点には、非常な低温では使いにくいこと、床やその他の建造部分を損傷する可能性があること、滑りやすくなる危険性があることなどがあげられます。

水冷式で研磨ディスクを使用した後、ディスクを 30 秒間乾燥させた状態で回転します。研磨ディスクを湿気のある場所で保管すると、バランスが悪くなり、負傷の原因になります。

携帯型、高速パワーカッター

弊社のカッティングブレードは携帯用高速パワーカッター用に製造されています。他社のブレードを使用する場合は、そのブレードがこのタイプのパワーカッター固有の必要条件を満たしていることを確認してください。

特殊ブレード

カッティングブレードの中には、固定装置やアタッチメント用に設計されたものがあります。これらのカッティングブレードは携帯用パワーカッターには使用できません。

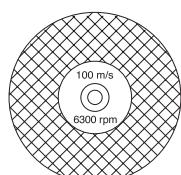
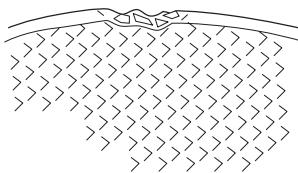
地域の行政機関に相談して法令への準拠を守ってください。

研磨ディスク

研磨ディスク上の切断素材は有機結合材で接着した粒子から構成されています。「補強ブレード」は繊維または繊維ベースの材料を使用しており、最高作動速度の際にブレードがヒビや損傷を受けても、完全に破損することを防止します。

カッティングブレードの性能は研磨粒子のタイプやサイズ、ならびに結合剤の種類および硬度により決まります。

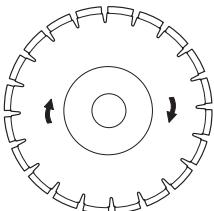
研磨ディスク、タイプおよび使用方法		
	使用方法	
ディスクタイプ	材料	水冷式
コンクリート	コンクリート、アスファルト、石材、鋳鉄、アルミニウム、銅;、真ちゅう、ケーブル、ゴム、プラスチックなど。	粉塵を軽減するために使用できます。研磨ディスクを水冷式で使用した後、乾燥した状態で約 30 秒間回転します。
金属	鉄、鉄合金、その他の硬質金属	推奨しません。

ブレードがエンジンの定格銘板に記載の速度あるいはそれ以上に準拠しているか確認してください。パワーカッターよりも遅い定格速度のカッティングブレードを使用しないでください。

ブレードにいかなるヒビや破損もないことを確認してください。

研磨ディスクを指で吊り下げ、ねじ回しのようなツールで軽く叩いてください。ディスクから共鳴音が聞こえないときは、破損しています。

ダイヤモンドブレード

ダイヤモンドブレードは産業用ダイヤモンドを含む刃先が鋼鉄製ブレード本体に付いた構成になっています。

ダイヤモンドブレードは交換頻度が低く、一定の切断深度を保つことができ、切断操作に係るコストを低減することができます。

ダイヤモンドブレードを使用するときは、ブレードに表記された矢印の方向に回転することを確認してください。

常に鋭利なダイヤモンドブレードをお使いください。砂岩やれんがのような柔らかい物質を切断してブレードの目立てを行ってください。

ダイヤモンドブレードは、硬度の分類によって各種のモデルがあります。「ソフト」ダイヤモンドブレードは、耐用年数が比較的短く、切断能力は高いという特性があります。このブレードは花崗岩や硬化コンクリートのような硬度の高い材料に使用します。「ハード」ダイヤモンドブレードは、耐用年数が長く、切断能力は低いという特性を持ちます。レンガやアスファルトのような柔らかい材料に使用します。

材料

ダイヤモンドブレードは石材、補強コンクリート、その他の複合材料の切断に適しています。ダイヤモンドブレードは金属の切断にはおすすめしません。

湿式切断用ダイヤモンドブレード

警告! 湿式切断用ダイヤモンドブレードは継続的に水冷してオーバーヒートを防いでください。オーバーヒートが起こるとブレードが破損し、その破片が飛び散り、負傷の原因になります。

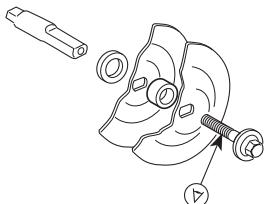
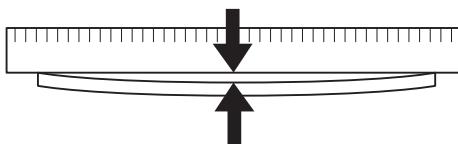
湿式切断用ダイヤモンドブレードは、切断中、ブレードの上に水をかけ、ブレードの温度を冷やします。また粉塵を固める効果もあります。

乾式切断用ダイヤモンドブレード

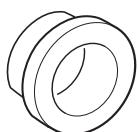
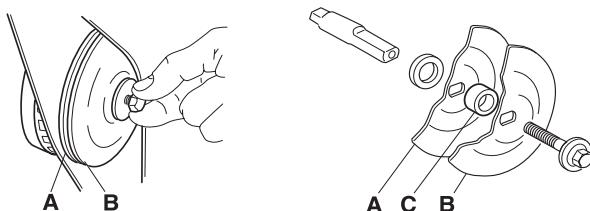
乾式切断用ダイヤモンドブレードは水冷を必要としない新世代のブレードです。それでもブレードは過度の熱で破損することがあります。これを防ぐ経済的な方法として、切断中、30 ~ 60 秒間ごとにパワーカッターを切断物から離し、空中にて約 10 秒間回転させブレードを冷やすこともできます。

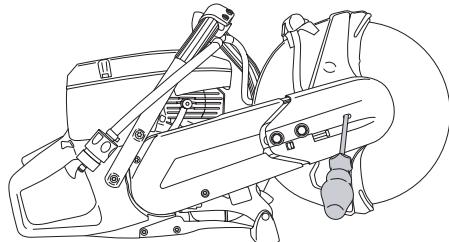
ドライブアクスルとフランジワッシャの点検

ドライブシャフトのスレッドに損傷がないことを確認します。

ブレードの接触面とフランジワッシャに損傷がなく、寸法が正しく、きれいになっているか、またドライブアクスル上を正しく回転するか確認します。

歪んでいたり、傷や凹みがあったり、また汚れているフランジワッシャは、使用しないでください。寸法の適切でないフランジワッシャは、使用しないでください。

カッティングブレードの取付

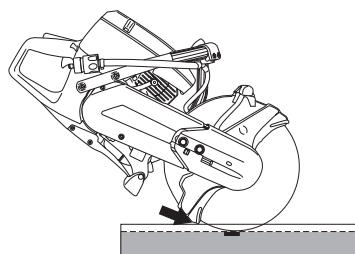
パートナー社のブレードは携帯用パワーカッター用に設計されています。

中央の穴の直径が異なるブレードの種類は以下の通りです。20 mm (0.787")、22.2 mm (7/8")、25.4 mm (1") の3種類があります。ブッシングをパワーカッターのアクスルに取り付けて、パワーカッターをブレードの中央の穴に合わせることができます。必ず適切な直径のブッシングを使用してください。ブレードには中央の穴の直径が表記されています。

ブレードは内側フランジワッシャ (A) とフランジワッシャ (B)との間のブッシング (C) 上に乗せます。フランジワッシャはアクスルにフィットするように回します。

ブレードを固定するボルトの締め付けトルク値は以下の通りです。15-25 Nm (130-215 in.lb)

シャフトはねじ回しやスチールピンなどのツールを使用してロックできます。このとき出来る限り滑り込ませてください。ブレードは時計方向に締めます。

ダイヤモンドブレードをパワーカッターに装着するときは、ブレードに表記された矢印の方向にダイヤモンドブレードが回転することを確認してください。

新しいブレードに交換するときは、フランジワッシャとドライブアクスルを点検してください。「ドライブアクスルとフランジワッシャの点検」を参照してください。

ブレード用ガード

ガードは必ずパワーカッターに取り付けてください。カッティング装置用ガードを適切に調整して後ろ側が切断対象材料と同一平面上になるようにします。ガードは切断物からの飛散物や火花が飛び散るのを妨ぎ、作業者を保護します。

燃料

注意! 本機は 2 サイクルエンジンを搭載しているため、運転にはガソリンと 2 サイクルエンジンオイルとの混合燃料が必要です。正しい混合率を確保するためには、オイルの量を正確に計量することが重要です。少量の燃料を混合する場合は、わずかな誤差でも配合に多大な影響を及ぼすことがあります。

警告! 燃料を取り扱う際は、常に十分な換気を行ってください。

ガソリン

- 無鉛または有鉛の良質なガソリンをご使用ください。

- 推奨される最低オクタン価は 90 です。90 以下のオクタン価でエンジンを作動させると、ノッキングの原因となることがあります。ノッキングが起きるとエンジンの温度が上がって、エンジンの深刻な損傷につながることがあります。

K750
2 サイクルオイル

- 最良の効果を得るに、 HUSQVARNA 2 サイクルオイルをご使用ください。このオイルは本機の 2 サイクルエンジン用として特別に作られています。
- アウトボードオイル（TCW）とも呼ばれる水冷式船外機用の２サイクルオイルは絶対に使用しないでください。
- ４サイクルエンジンオイルも絶対に使用しないでください。
- 品質が悪いオイル、またはオイル/燃料の混合比が高すぎる場合は、触媒コンバーターの機能を損ない、耐用年限を短縮させることがあります。

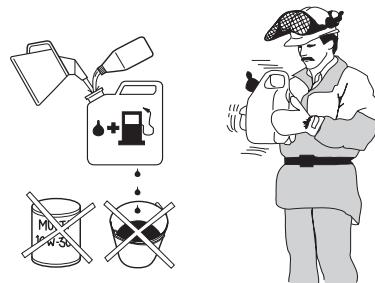
混合比

1:50（2%）、HUSQVARNA 2サイクルオイル

1:33（3%）、オイルクラス JASO FB または空冷2サイクルエンジン ISO EGB。

ガソリン、リットル	2 サイクルオイル、リットル	
	2% (1:50)	3% (1:33)
5	0.10	0.15
10	0.20	0.30
15	0.30	0.45
20	0.40	0.60

混合

- ガソリンとオイルを混合するときは、常に清潔な燃料用容器をご使用ください。
- 必ず使用予定の半量のガソリンを、最初に容器に入れます。次にオイルの全量を入れ、燃料の混合物を良く混ぜ（振り）ます。最後に残りのガソリンを加えます。
- パワーカッターの燃料タンクに給油する前に、混合燃料を良く混ぜ（振り）ます。
- 1ヵ月分以上の混合燃料を一度に作らないでください。
- パワーカッターをしばらく使わないときは、燃料タンクを空にし、清掃してください。

K750 OilGuard（オイルガード）
2 サイクルオイル

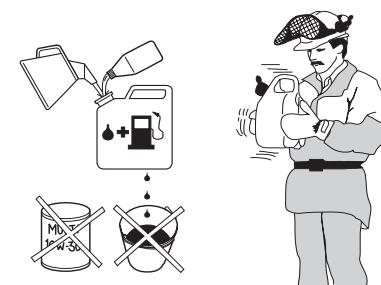
HUSQVARNA 製の 2 サイクルエンジンオイル「オイルガード」を使用してください。

混合比

1:50（2 %）HUSQVARNA 製オイル「オイルガード」を使用

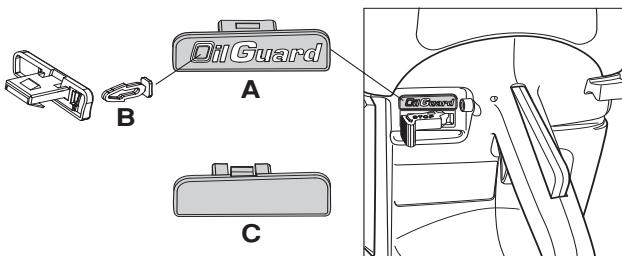
ガソリン、リットル	2 サイクルエンジンオイル、リットル
	2% (1:50)
5	0.10
10	0.20
15	0.30
20	0.40

混合

- ガソリンとオイルを混合するときは、常に清潔な燃料用容器をご使用ください。
- 必ず使用予定の半量のガソリンを、最初に容器に入れます。次にオイルの全量を入れ、燃料の混合物を良く混ぜ（振り）ます。最後に残りのガソリンを加えます。
- パワーカッターの燃料タンクに給油する前に、混合燃料を良く混ぜ（振り）ます。

- 1ヵ月分以上の混合燃料を一度に作らないでください。
- パワーカッターをしばらく使わないときは、燃料タンクを空にし、清掃してください。

オイルガードの無効化機能

オイルガード装備のパワーカッターには、燃料の混合比が正しくない場合にそれを検知するシステムが内蔵されています。パワーカッターを始動すると、検出器が約 10 秒で燃料の質を読み取ります。HUSQVARNA 製オイル「オイルガード」の混合比が正しい場合、パワーカッターは正常の速度で回転を始めます。誤ったタイプのオイルを使用している場合はパワーカッターが検知し、エンジンの速度を 3800 rpm に抑えてエンジンへの損傷を防止します。パワーカッターを正常の速度で使用するには、誤った混合燃料をタンクからすべて出し、HUSQVARNA 製オイル「オイルガード」を使用した正しい混合比（2 %）の混合燃料を新たに入れてください。

納品時のパワーカッターは、オイルガードプラグ A（青色）と青色の表示針 B がタンク内に取り付けられています。HUSQVARNA 製オイル「オイルガード」が手に入らないために類似した品質のオイルを代用する場合は、 無効化機能を使用してオイルガードシステムを無効にすることができます。システムを無効にするには、ネジ回しなどでオイルガードプラグをこじ開け、表示針を取り去ってください。次に、プラグ C （オレンジ色）をはめ、タンクの穴をふさぎます。

オイルガードシステムを再び使用したい場合には、オイルガードプラグを元の位置にはめてください。 これでオイルガードシステムは有効になりますが、取り去った表示針を元通りに取り付けることはできません。表示針がないということは、オイルガードシステムが無効になっているということを意味します。予備部品として表示針を購入することができますが、予備部品の表示針は色がグレーになっており、工場出荷以降にオイルガードシステムが無効にされたことが分かるようになっています。

給油

警告! 火災を避けるため、以下の注意を守ってください。

燃料付近で喫煙したり、近くに高温の物を置かないでください。

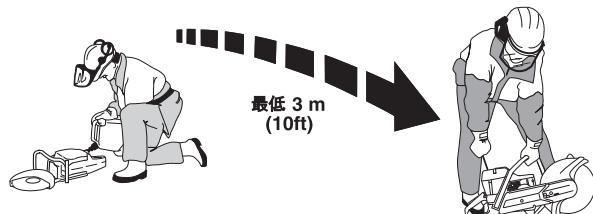
給油の際には必ずエンジンを止めてください。

給油の際には、超過圧力が徐々に放出されるよう、燃料キャップをゆっくり開けてください。

給油後は燃料キャップをしっかり閉めてください。

パワーカッターを始動する際は、必ず給油場所から移動してください。

- ハンドル部は乾いており、オイルや燃料が付着しないように気をつけてください。
- 混合燃料は、給油前に容器を良く振って混ぜてください。

- 給油を行うときは、常に注意を払ってください。給油後は、給油した場所から少なくとも 3 m 離れたところで始動してください。燃料キャップが正しく締まっていることを確認してください。

- 燃料キャップの周囲をきれいにします。燃料タンクとオイルタンクは、定期的な清掃が必要です。燃料フィルターは、少なくとも年に一度交換してください。タンク内の汚れは故障の原因となります。

始動と停止

警告! 始動に当たっては、下記の注意点を守ってください。

ベルトガードを取り付けずにパワーカッターを始動しないでください。クラッチが外れて負傷の原因となることがあります。

パワーカッターを始動する際は、必ず給油場所から移動してください。

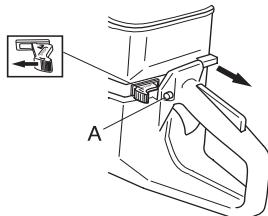
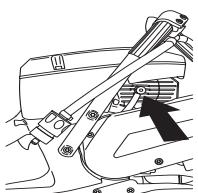
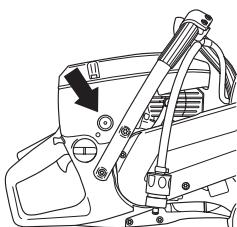
パワーカッターを正しく持ちカッティングブレードが物に当たることなく自由に回転するようにしてください。

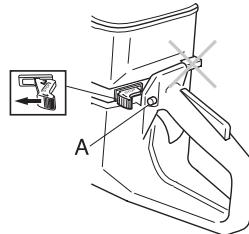
作業現場に関係者以外の人や動物がいないことを確認してください。

冷機エンジンの始動

イグニション: イグニッションスイッチを左にスライドさせます。

チョーク: チョークコントロールを完全に引きます。

スロットルロックの始動 スロットルトリガーロック、スロットルトリガーを押し、次にスロットルロック (A) を始動します。スロットルトリガーを放せばハーフスロットルの位置でロックされます。スロットルトリガーを完全に押すとロックは開放されます。

自動デコンプバルブ パワーカッターには自動デコンプバルブが搭載されており、パワーカッターの始動を容易にします。

エアパージ: **エアパージバルブを、バルブが燃料で満たされるまで何回か押します（最低でも6回）。バルブが完全にいっぱいになるまで注入する必要はありません。**

暖機エンジンの始動

始動方法は冷機エンジンとほぼ同様ですが、チョークコントロールをチョークの位置に入れません。

始動

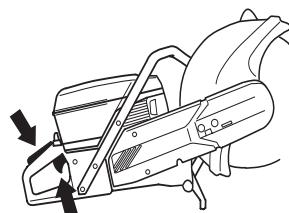
警告! カッティングブレードは、エンジンが始動すると回転します。ブレードが自由に回転することを確認してください。

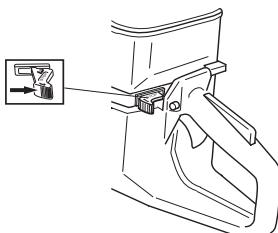
左手で前ハンドルを握ります。後ろハンドルの下側に右足を乗せ、パワーカッターを地面に押し付けます。

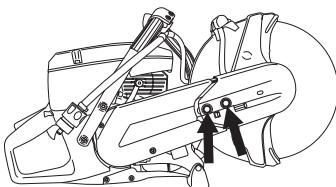
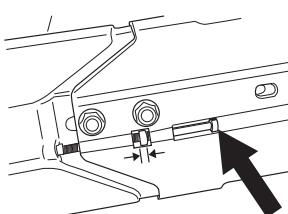
スターターロープは絶対に手に巻き付けないでください。

右手でスターターハンドルを握り、抵抗を感じる（歯止めにかかる）までゆっくりとスターターロープを引き出します。次に素早く、強くロープを引っ張ります。

注意! スターターロープをいっぱいに引き出し、引っ張った状態からスターターハンドルを急に放さないでください。パワーカッターに損傷を与える可能性があります。

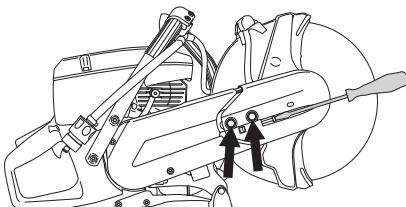
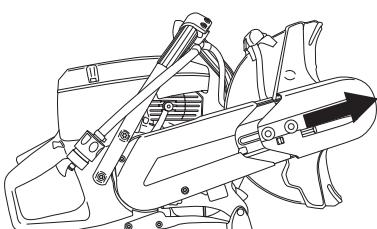
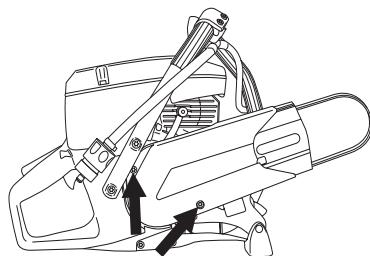
エンジンが始動したら、すぐフルスロットルにし、高速アイドリングに自動開放します。

停止

停止スイッチを停止の位置にすればイグニッションがオフになり、エンジンが停止します。

ドライブベルトの張り具合

- 摩擦リターダーを装備しているパワーカッターでは、ブレードを手で回すと何かを擦るような音がベアリングハウジングから聞こえることがあります。 これは故障ではありません。 ご不明な点については、ハスクバーナの認定を受けたワークショップにお問い合わせください。
- ドライブベルトは完全密閉され、ホコリや汚れから効果的に保護されています。
- ドライブベルトの調整をするには、カッティングアームを固定するボルトを緩めます。

- 調節ネジを回し、角頭ナットがカバーの表記と反対側にくるようにします。これはベルトが自動的に正しい張力を持つようにするためです。

- T レンチを使用してカッティングヘッドを固定するネジを両方締め付けます。

重要事項 新しいドライブベルトの張り具合は燃料タンクを 1、 2 回使用するごとに再調整してください。

ドライブベルトの交換

- 最初にボルト 2 本を緩め、次に調節ネジを緩め、ベルトの張りを緩めます。

- ボルトを緩めてベルトガードを取り外します。

- ベルトプーリーからベルトを取り外してください。
- これでカッティングヘッドが緩み、パワーカッターから取り外すことができます。ガードを固定しているネジ 2 本を緩めて後部のベルトガードを取り外します。

- ドライブベルトを交換します。
- 取り外した手順と逆の順番に組立てます。
- カッティングブレードを覆うガードにヒビが入っていたり、破損していないことを確認してください。損傷を発見したら交換してください。

ベルトプーリーとクラッチ

メンテナンスのためにベルトプーリーとクラッチを取り外した状態でエンジンを始動しないでください。

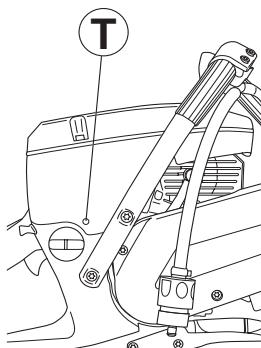
キャブレター

警告! カッティングアームやカッティングヘッドを取り付けずにパワーカッターを始動しないでください。クラッチが外れて負傷の原因となることがあります。

キャブレターは固定ニードルが付いており、パワーカッターが常に正しい燃料とエアの比率を確保できるようになっています。エンジンのパワーが不足したり、加速が弱い場合、以下の手順に従ってください。

- エアフィルターを点検し、必要に応じ交換します。
- このようにしても、解消しない場合は、認定代理店の修理サービスにご相談ください。

アイドリング速度の調整

アイドリング速度の調整は T ネジで行います。調整が必要な場合は、まずネジをブレードが回転し始めるまで時計方向に回します。次にブレードの回転が停止するまで反時計方向に回します。

推奨するアイドリング速度： 2700 rpm

警告! アイドリングの速度設定ができずブレードが停止してしまう場合は、お近くのサービス代理店にご連絡ください。パワーカッターのご使用は調整または修理が完了するまでお控えください。

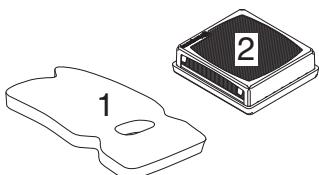
燃料フィルター

- 燃料フィルターを燃料タンクの中に取り付けます。
- 燃料タンクに給油中に異物が混入するのを防ぐ必要があります。異物の混入を防ぐと、タンクの中にある燃料フィルターが詰まることによる作動性の低下を未然に防止できます。
- フィルターは詰まると、清掃することはできません。新しいフィルターに交換してください。**フィルターは、少なくとも年に一度交換してください。**

エアフィルター

下記のような問題の発生を防止するため、エアフィルターは定期的に清掃し、ホコリや汚れがたまらないようにしてください:

- キャブレターの不具合
- 始動不良
- エンジンのパワー不足
- エンジン部品の不要な摩耗
- 燃料の異常消費

エアフィルターシステムはオイルフォームプラスチックフィルター (1) と紙フィルター (2) から構成されます。

1 フォームプラスチック製フィルターはフィルターカバー A の下にあり、簡単にアクセスできます。このフィルターは毎週 1 回点検し、必要に応じて交換します。

フィルターを効果的に機能させるには、定期的にフィルターを交換するか、清掃しオイルで潤滑させます。HUSQVARNA 社の特製オイルはこの目的のために開発されました。

フォームプラスチック製フィルターを取り外します。フィルターはぬるま湯に洗剤を混ぜてよく洗浄してください。洗浄したら、フィルターをきれいな水でよくすすいでください。水気を絞りフィルターを乾燥させます。注記! 高圧空気を使用するとフォームが破損する可能性があります。

フィルターをビニール袋に入れフィルターオイルを注ぎます。ビニール袋の上から揉み解し、オイルを均一に行き渡らせます。フィルターをパワーカッターに装着する前にビニール袋の中のフィルターから余剰オイルを搾り出し、廃棄します。注意! 通常のエンジンオイルは絶対に使用しないでください。

2 紙フィルターはカバー B の下からアクセスできます。フィルターはエンジンのパワーが落ちる場合または月に一度交換または清掃してください。フィルターは振ると清掃できます。フィルターは洗浄できないので気をつけてください。

注記! 高圧空気を使用するとフィルターが破損する可能性があります。

一定期間使用したエアフィルターはどんなに洗っても完全にきれいにはなりません。定期的に新しいフィルターと交換してください。**破損したエアフィルターは必ず交換してください。**

重要事項

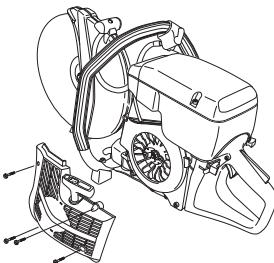
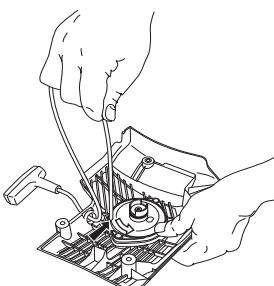
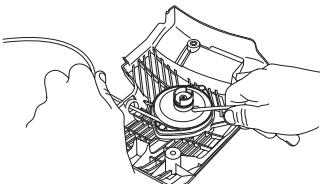
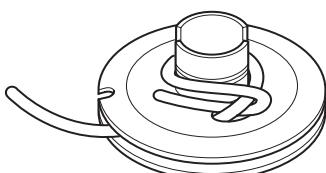
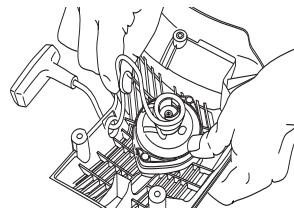
エアフィルターの手入れが悪いとスパークプラグにカーボンが付着し、エンジンの部品に異常な磨耗を起こす原因となります。

スターター装置

警告! リコイルスプリングは張力を持った状態でスターターハウジングに組み込まれているため、不注意に取り扱うとスプリングが飛び出して負傷の原因となることがあります。

リコイルスプリングやスターターロープを交換する際は十分に注意してください。常に保護メガネを着用してください。

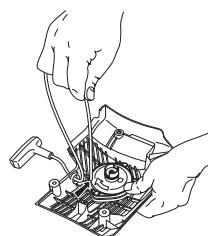
摩耗または破損したスターターロープの交換

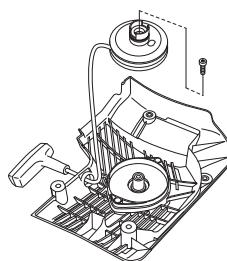
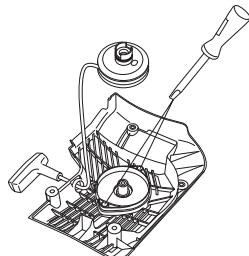
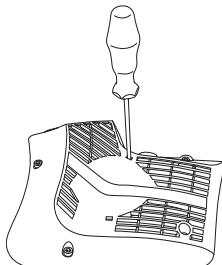
- スターター装置をクランクケースに固定しているネジを緩め、スターター装置を取り外します。

- ロープを約 30 cm ほど引き出し、スタータープーリーの外側にある切り込みにかけます。ロープに損傷がない場合、プーリーをゆっくりと逆方向に回し、リコイルスプリングの張力を逃がします。

古いスターターロープの残りを取り除き、リターンスプリングが正しく作動するか確認します。新しいスターターロープをスターターハウジングの穴とローププーリーの穴に通します。

スターターロープは図を参照してローププーリーの周りにしっかり回します。しっかり結び付けて、遊びの端部分ができるだけ短くなっていることを確認します。スターターロープの端がスターターハンドルに確実に留まっていることを確認します。

ロープをプーリーの外側にある切り込みに通し、スタータープーリーの中央の周りを 3 回時計方向に巻きます。

スターターハンドルを引き、スプリングに張力を持たせます。もう一度、手順を繰り返します。今回は、4 回巻いてください。

スプリングの張力の調整を行った後、スターターハンドルが正しいホームポジションに引かれるのを確認してください。

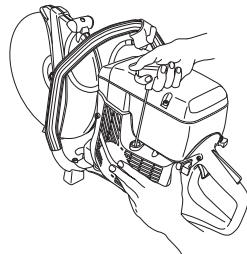
スターターロープが完全に引き出されると、スプリングがエンドポジションに引き戻されないことを確認してください。親指でスタータープーリーの動きを遅くさせ、プーリーがさらに少なくとも半回転回ることを確認します。

リコイルスプリングの調整

- スターターロープをプーリーの切欠部にかけ、プーリーを時計方向に約 2 回転します。

破損したリコイルスプリングの交換

- プーリー中央のボルトを外し、プーリーを取り外します。

- リコイルスプリングはスターターハウジングの張力で巻かれていることに留意してください。
- スプリングカセットを固定するボルトを緩めます。

- スターターを回してリターンスプリングを取り外しネジ回しを使用してフックを緩めます。フックはスターター装置のリターンスプリングアセンブリを固定します。

- リコイルスプリングに薄いオイルを塗布します。プーリーを取り付け、リコイルスプリングを張ります。

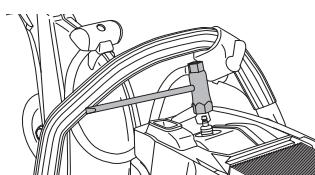
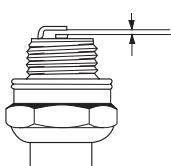
スターター装置の準備

- スターター装置の準備には、まずスターターロープを引き出し、スターター装置をクランクケースにあてがいます。次にプーリーに爪がかかるよう、スターターロープをゆっくりと戻します。

- ネジを締めます。

スパークプラグ

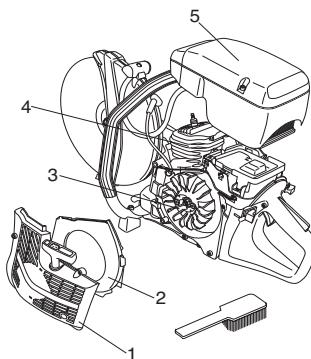
スパークプラグの状態は下記の点に影響されます。

- 燃料の誤った混合（オイル過多）
- フィルターの汚れ

上記の要因によりスパークプラグ電極にカーボンが付着し、運転中の不具合や始動困難などの原因となります。

- エンジンのパワーが出ない、なかなか始動しない、アイドリングスピードが安定しないなどの場合は、常に、何よりもまずスパークプラグを点検してください。スパークプラグが詰まっていたら清掃し、同時に電極ギャップが 0.5 mm になっているか確認します。

注意! 必ず指定のタイプのスパークプラグを使用してください！不適正なスパークプラグは、ピストンやシリンダーの損傷の原因となります。

冷却システム

運転時の温度をできる限り低く保てるよう、本機には冷却システムが装備されています。

冷却システムの構成は以下のとおりです。

1　スターター装置の吸気口

2　エアガイドプレート

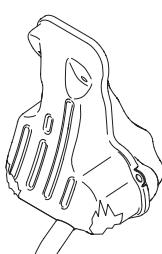
3　フライホイールのファン

4　シリンダーの冷却ファン

5　シリンダーカバー

冷却システムをブラシで週に一度、過酷な使用環境ではより頻繁に清掃してください。冷却システムが汚れたり詰まったりしているとパワーカッターがオーバーヒートを起こし、ピストンやシリンダーの損傷の原因となります。

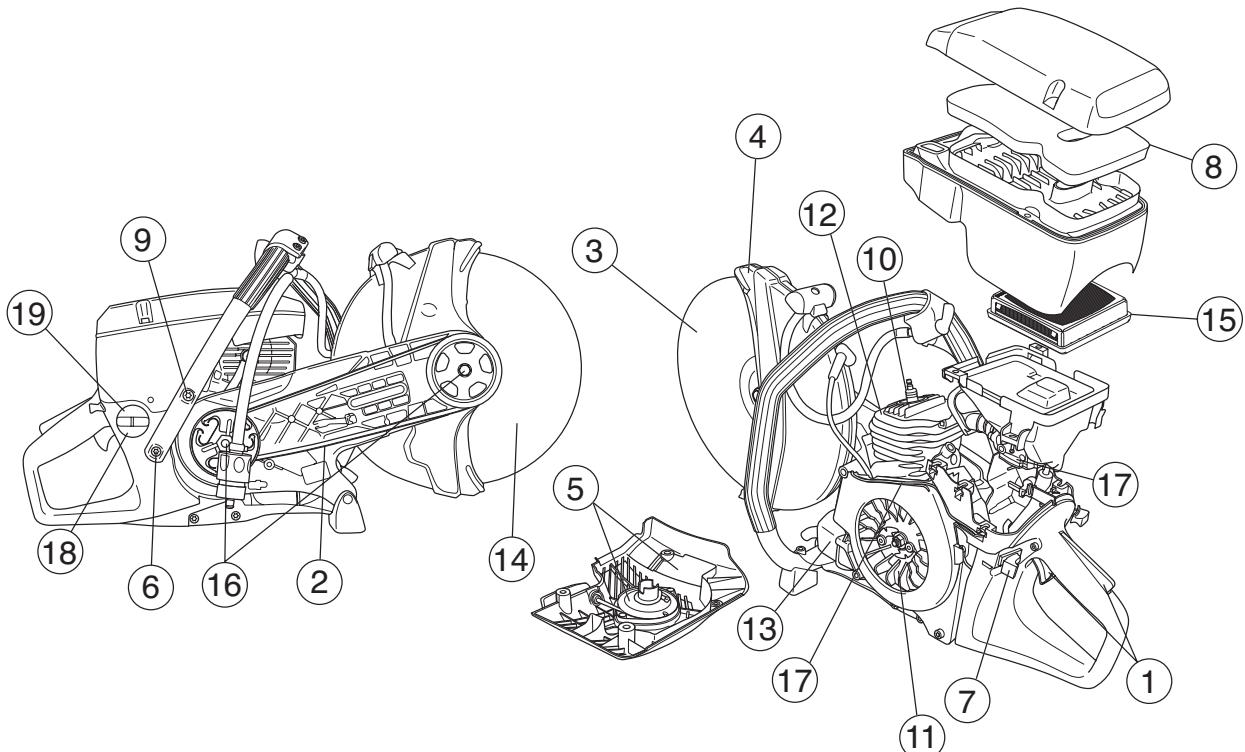
マフラー

マフラーは騒音レベルを下げ、排気ガスを使用者から遠ざけるように設計されています。排気ガスは高温である上に火花を含んでいることがあり、乾燥した可燃物に接触すると火災の原因となりかねません。

欠陥のあるマフラーを装着したパワーカッターは決して使用しないでください。

メンテナンス

一般的なメンテナンスの方法

ここでは一般的なメンテナンスについて説明しています。

詳細は、お近くのサービス代理店にお問い合わせください。

毎日行うメンテナンス

1 スロットルトリガーのコンポーネントが正しく機能するかどうか点検します（スロットルトリガーとスロットルトリガーロック)。

2 ドライブベルトの張り具合を点検します。

3 ブレードとドライブギアの状態を点検します。

4 ブレードガードの状態を点検します。

5 スターターとスターターロープを点検し、スターターユニットの吸気口の外側を清掃します。

6 すべてのナットやネジ類が確実に締まっているかどうか点検します。

7 停止スイッチが正しく機能していることを確認します。

毎週行うメンテナンス

8 フォームのプラスチックフィルターを点検、清掃、または交換します。

9 ハンドルや振動軽減ユニットの各部品に損傷がないか点検します。

10 スパークプラグを清掃します。電極ギャップが 0.5 mm あるかどうか点検します。

11 フライホイールのファンを清掃します。スターター装置とリコイルスプリングを点検します。

12 シリンダーの冷却ファンを清掃します。

13 マフラーがしっかりと固定され、損傷がないことを確認します。

14 アイドリングの設定を点検し、必要に応じ調整します。

毎月行うメンテナンス

15 紙フィルターの点検

16 クラッチハブ、ドライブギア、およびクラッチスプリングの摩耗度を点検します。

17 キャブレターの外側を清掃します。

18 燃料フィルターと燃料ホースを点検します。必要に応じ交換します。

19 燃料キャップとシールに損傷がないことを確認します。

20 すべてのケーブルと接続部を点検します。

主要諸元

エンジン	K750	
排気量、cm^3	74	
口径、mm	51	
行程、mm	36	
アイドリング回転数、rpm	2700	
推奨アイドリング最大回転数、rpm	9300 (+/- 150)	
出力、kW/ rpm	3.7/9000	
イグニションシステム		
イグニションシステムのメーカー	SEM	
イグニションシステムの型式	CD	
スパークプラグ	Champion RCJ 6Y	
電極ギャップ、mm	0.5	
燃料および潤滑システム		
キャブレターのメーカー	Zama	
キャブレターの型式	C3	
燃料タンク容量、リットル	0.9	
重量		
燃料およびカッティングブレードなしの パワーカッター本体、kg		
12" (300 mm)	9.4	
14" (350 mm)	9.8	
騒音レベル		
(注記1参照)		
実測音響レベル dB(A)	112	
保証音響レベル L_{WA} dB(A)	113	
音量レベル		
(注記2参照)		
使用者聴覚での等価音圧レベル、 EN 1454に基づく実測値、dB(A)	97	
振動レベル		
ハンドルの振動、EN 19432 に基づく実測値	**12" (300 mm)**	**14" (350 mm)**
フロントハンドル、相当値、m/s^2	3.2	3.0
リヤハンドル、相当値、m/s^2	4.6	5.0

注記 1: EC 指令 2000/14/EC に則し音響効果 (L_{wa}) として測定した、環境への騒音排出量

注記 2: 等価騒音レベルは、以下の時間分割比で、アイドリングと最高速度の作動状態における騒音レベルの時間加重エネルギーとして計算されます: 1/2 アイドリング、1/2 最高速度

カッティング装置

カッティングブレード	最高周速、m/s	出力シャフト最高速度、rpm
12" (300 mm)	80	4650
14" (350 mm)	100	4650

EC 適合宣言

(ヨーロッパにのみ適用)

Husqvarna Construction Products、SE-433 81 スウェーデン、パッティレ市、電話：+46-31-949000は、単独責任のもとで宣言します。2006年のシリアル番号以降（年は銘板に連続したシリアル番号と共に明記）のパワーカッタ ー***K750***は、評議会指令 (COUNCIL'S DIRECTIVES) の規定に適合しています。

- 1998年6月22日付け「機械類に関する」**98/37/EC**、付録 IIA
- 1989年5月3日付け「電磁波適合性に関する」**89/336/EEC**と適用補足文書
- 2000年5月8日付け 「環境への騒音排出に関する」**2000/14/EC**

騒音排出に関する詳細は「主要諸元」の章を参照してください。

次の標準規格にも適合しています： **SS-EN ISO 12100:2003, EN-ISO 55012:2002, EN 1454, ISO 19432**

さらに SMP、Svensk Maskinprovning AB、Fyrisborgsgatan 3、SE-754 50 ウプサラ、スウェーデンは、議会指令 2000/14/EC の補足 V に従って適合性査定を実施しました。認証番号： ***01/169/014*** - K750

2006年11月14日、パッティレにて

Ove Donnerdal

開発部長 Ove Donnerdal（オブェ・ドンネルダル)